



第31回 日本ペストロジー学会 宮城大会

プログラム・抄録集

研究が結ぶ知識と仲間の輪

2015年11月12日(木)・13日(金)

会場●仙台市情報・産業プラザ

仙台市青葉区 AER (アエル) 5F

主催／日本ペストロジー学会

後援／宮城県・仙台市



25. 建築物におけるねずみ・昆虫の生息状況に関するアンケート調査

○元木 貢・谷川 力・村田 光・月城 熙城・安居院宣昭・春成 新
(害虫防除業中央協議会)

【背景】（公社）日本ペストコントロール協会と（公社）全国ビルメンテナンス協会で組織する害虫防除業中央協議会においては、平成 26 年度事業計画「建築物衛生法の改正に向けての調査研究」の一環として、建築物衛生法に定められている特定建築物の「床面積 3,000 m² 以上」と「3,000 m² 未満」の建築物におけるねずみ・昆虫等の生息状況等の実態を把握するため、建築物の築年数、延べ面積、用途、契約内容、有害生物発生状況、清掃などの管理状況、IPM の順守状況、管理者の協力状況などの項目について、ねずみ・昆虫等の防除を業務とする事業者に対し、その実態を把握することを目的としてアンケートを実施した。

【調査方法】（公社）日本ペストコントロール協会会員 883 社に、書面にてアンケートを送付、回答期間は 2014 年 2 月 21 日～3 月 21 日とし、返信用封筒により回収した。回答社数は 295 社（33.4%）、現場数として 3,382 件の回答が得られた。

【結果】 ゴキブリの措置水準に該当する建築物は、特定建築物（3,000 m² 以上）で 6.2%、2,000 m² 未満では 5.0%、2,000 ～ 3,000 m² 未満で 3.9% と、特定建築物でより高い比率が示され、大規模な建築物における防除の難しさが示唆された。ネズミの許容水準では建物面積が大きくなるほど多くなり、警戒水準と措置水準は建物面積が小さくなるほど多くなる傾向が見られたことから、防鼠構造上、環境整備上からも小規模建築物の方がより問題が多いことが示唆された。

蚊、ハエ・コバエなどでは、許容水準、警戒水準、措置水準の各値は建物面積による差は少なく、措置水準に該当するものは 2%～5% 程度であった。

【考察】 今回のアンケート調査で、回答現場数は 3,000 m² 未満が特定建築物を上回り、「ねずみ昆虫が多い」という理由により防除を行っている現場が多いことから、義務としてではなく、ねずみ昆虫防除の必要性は 3,000 m² 未満の建築物であってもより強く認識されていることがうかがえた。また、3,000 m² 未満の建築物に対しても、建築物衛生法を適用し、有害生物の防除のための具体的な IPM の導入の後押しをする必要性が示唆された。